



たがやす

「たがやす」には、ちいきを耕し、こころを耕していきたいという気持ちが込められています

1. 広島市障害者自立支援協議会とは?

「障害者自立支援協議会」は、障害のある人等への支援について情報を共有し、関係機関等と連携を図りながら、地域の実情に応じた支援について協議を行う場です。各区に地域部会があり、障害のある人も障害のない人も、誰もが暮らしやすい地域づくりを目指しています。

2. 西区地域部会からの報告

令和5年1月18日に、中区・西区地域部会が合同で障害者虐待防止研修を開催しました。

目的: 現場の支援者が障害者虐待対応への理解を深めること、虐待の未然防止、早期発見、発生時や発生後の支援の在り方を学ぶ。

講師: 広島市健康福祉局障害福祉部障害福祉課 里本 浩基 主事

内容: 法律の整理、虐待の種類、種類別の通報先、広島市障害者虐待防止センターの機能と役割、一時保護の支援の流れ、施設内における虐待対応の流れ等についての講義。

講義を受けた支援者の声:「現場の支援者や障害のある方の人権や生活を守り、障害がある方やご家族が安心して暮らせる地域作りへ繋がりたいです」

支援者向けの
研修です♪

! 通報・相談先一覧!

場所 年齢	いえ 家	施設		企業
		入所	通所	
0~18歳	★広島市児童相談所 082-263-0694	★広島市児童相談所 082-263-0694	◆広島市障害者虐待防止センター	◆広島市障害者虐待防止センター 082-542-5300
18~64歳	◆広島市障害者虐待防止センター 082-542-5300 (24時間対応) 平日の日中は広島市障害福祉課 082-504-2147	◆広島市障害者虐待防止センター 082-542-5300 (24時間対応) 平日の日中は広島市障害福祉課 082-504-2147		
65歳~	各地域包括支援センターまたは区地域支えあい課 地域包括ケア推進センター or ◆広島市障害者虐待防止センター 082-542-5300 (24時間対応)			

疑わしいものは相談して!

相談した方の秘密は守られます。相談だけでも出来ます。

作成: 広島市西区障害者基幹相談支援センター

3. 西区障害者防災プロジェクトからの報告

★ 障害福祉サービス事業所向け防災力向上講座(全2回)を行いました。★

2月1日 第1回目 「災害の備えについて考えよう」

2月24日 第2回目 「みんなで助かる! 福祉×防災×コミュニティ」

講師: 広島市手をつなぐ育成会 親の会 安佐北支部長 (防災士)

講師: 福祉防災コミュニティ協会 福祉防災上級コーチ 湯井 恵美子さん

講義内容(ポイント) 小川 優子さん

講義内容(ポイント)

- 平成30年7月の豪雨災害の体験談
- 生き残るためには自分で備えることが一番大事 (自助: 共助: 公助=7:2:1)
- 個人や障害の特性に合った防災袋を準備する、日頃から地域と繋がって、学校や事業所で避難袋を準備しておく等の心得についてなど。

- 自分だけは大丈夫と思っていないか? (正常化の偏見、過去の災害の教訓)
- 避難行動と避難生活は十分な訓練(体験)が無いとできない!
- 避難計画に必要な視点は、「本人の困りごとの共有」
- 生活の中で福祉防災をいかに落とし込むかの視点が大切

【事業者に求められる役割】 障害者も支援者もみんなが助かるために!!

- ① 利用者の安全確保(避難確保計画)
- ② 災害時も最大限サービスが継続できる体制づくり(福祉BCP「事業継続計画」)
- ③ 職員の安全確保(職員も怪我をする!) ④ 地域への貢献

講演後、「障害者の災害の備えについての課題」をグループごとに意見交換しました。

参加者の声:「危機意識の共有がまず必要だと思った。」
「避難訓練と避難生活の訓練が圧倒的に足りないと思った。」
「地域との繋がりが薄いので、繋がりを深める取り組みが必要だと思った。」

講演後、グループごとに事例を使って、マイ・タイムライン(住民一人ひとりの防災行動計画)を作成しました。

参加者の声:「平時の準備の大切さを痛感した。」
「ハザードマップや避難情報を収集するだけでかなり時間がかかると思った。」
「障害者の避難の難しさについて考えさせられた。」



令和4年度第19回精神障害者地域交流事業(・ω・)

コロナ禍で2年間開催できなかった交流会が、2月20日に19回目として開催されました。

この事業は、精神障害者やそのご家族が「地域で普通に暮りたい」の願いの下、

平成14年から交流会として始まりました。

前半では、他の事業所や地域の民生委員さん等で都道府県ビンゴを行い、交流を楽しみました。

後半は「自分らしく地域で暮らすために」をテーマに、広島市ピアサポーターと

西区障害者基幹相談支援センターが講演を行いました。

今回、初めてピアサポーターさんからお話をいただいたことや、西区障害者基幹相談支援センター

から地域生活支援拠点事業についての講演は「普通に生きる」を、参加されている全ての方に伝える力がありました。

今回、2年間のブランクがあり、コロナ禍でもあることから、開催するかどうかの議論から始まりましたが、

開催出来たことを大変嬉しく思いました♪

(打ち合わせ会構成メンバー)

西区民生委員児童委員連合会、西区社会福祉協議会、西区地域支えあい課、

地域活動支援センターⅢ型CrossRoad、就労継続支援B型 かざぐるま舎・ワークネクスト、

西区精神保健福祉家族会ひまわり会)

たがやしびと

特定非営利活動法人 障害者生活支援センター てごーす 畑 俊彦 さんです

畑さんは、利用者という立場であり、相談支援専門員として利用者を支援されている職員さんです!

また、てごーすの理事兼副代表であり、相談支援センターゆるっとの管理者もされています!

今回は、畑さんの実際のお仕事内容や今のお気持ちについてインタビューしてきました!

↓↓↓ インタビューの内容 ↓↓↓

Q てごーすとはどんな所ですか? — A 利用者の自立を目指す「自立生活センター」です。自立生活センターは全国に120か所あり、

障害当事者が中心となって運営・相談支援をしているところがポイントです。自立したいという方の相談を受けて、

介護派遣を行っています。てごーすの利用者は約20名、全体の7割が身体障害者、3割が知的・精神障害者の方です。

Q 畑さんについて教えてください! — A 高校生の頃に兵庫県西宮市で開催された3泊4日の障害者甲子園に参加しました。

障害者の自立・人権について考たり、地域バリアフリーの調査を行いました。

この経験が今まで親で暮らしていた自分にとってプチ自立生活となり、自信に繋がりました。

高校卒業後は自立生活をしようと思いましたが、高校卒業後には西宮市の自立生活センターで活動し、

西宮市自立支援協議会にも参加しました。くらし部会(生活を考える部会)で3年間副部長として活動しました。

2013年に、広島のお菓子の博覧会で電動車イスでの入場制限があるという全国的なニュースが飛び込んで生まれ育った広島県にまだ差別・

偏見があるんだな、と唖然としました。広島県を変えたいと思い、広島県へ帰り2014年にてごーすに就職しました。

Q お仕事で大事にしていることは — A 自立支援で大切にしていることは、①自分が今、何がやりたいかの自己選択、②自己決定、③その責任を取る自己責任を大事にして欲しい、という事です。

どのようなことですか? 自立支援に必要な支援をしている中で、利用者からの相談を通じて自分自身新しい気づきがあります。

Q 目指す地域のイメージを教えてください — A 「助けて」と誰もが言える地域だと思います。そのためにまずは、誰もが、教育の段階から勉強だけでなく、障害者も健常者もともに過ごして欲しい。

高校の同級生が私の家の近くに飲食店を出す時に、同級生からは「畑が来れるように」と一部バリアフリーにしてくれました。学校生活での繋がりが

社会を作っていくものと感じました。

お問い合わせ先:

障害者生活支援センター てごーす

〒733-0025 広島市西区小内町2-7-5

TEL: 082-294-4185

「てごうする」とは
ひろしま弁で「手助けする」
それがてごーすの由来!



めざす会は1986年に地域で学び合う教育を考える連絡協議会として任意団体として設立。その後、障害児の教育だけではなく、年に数回のレクや学校への講師派遣等を行い、現在でも任意団体として「地域で生きる教育とくらしをめざす会」として活動を行っています。

広報紙「たがやす」に関するご意見、ご感想などございましたら事務局までお寄せ下さい。

また、掲載にご協力いただける、ボランティア団体や地域団体も募集しています。

編集: 広島市障害者自立支援協議会西区地域部会

事務局: 広島市西区障害者基幹相談支援センター

(広島市西区草津梅が台10-1) TEL 082-270-1249

FAX 082-270-1248 Email: e-nishiku@kusatsu-hp.or.jp